

## 豊かで勢いのある町について

私は、3月議会定例会での町長の施政方針において『私が目指す吉田町は「豊かで勢いのある町」でございます。「豊か」とは、この町の企業が安心して生産活動を営み、多くの雇用の場が確保されていることであり、「勢い」とは、人口が増加し続けることであると考えております。全国的に人口減少社会が叫ばれる中において、この町が豊かさと勢いを保つためには、行政が責任をもって「津波防災まちづくり事業」のハード整備を一日も速く完成させ、「目に見える安全」を提供しなければなりません』と述べ、『そして、確固たる安全の下、「子育て」「教育」「健康づくり」といった「支える安心」を提供することで、活気ある若い人が集まり、元気な子どもが増え、そして、この地で生活し続けたいと願う人々が多くなる社会を作り上げなければならぬと強く感じております』と締めくくりました。



## 豊かで勢いのある町の意味するもの

本町は、昭和44年の東名吉田インターチェンジ開通以降、数多くの企業の進出があり、多くの雇用の場が創り出されこれまで発展を遂げてきました。企業の進出による雇用の場の創出により、本町の就業者数および人口はこれまで増加を続け、平成22年の国勢調査によれば、県下35市町のうち25市町が少子高齢化の進展に伴って人口が減少する中、本町は長泉町に次いで県下2番目の人口増加率を誇りました。

このことから、これまでの吉田町も「豊かで勢いのある町」であるということができます。つまり、私が考える「豊かで勢いのある町」とは、ただ単純に今の町と比べるのではなく、これまで先人が築いてこられたこの町の勢いを維持し、さらに発展させていく先にある姿であり、私が全力で作ってあげ、後人に誇りを持って渡すことができる町の姿であると考えるものです。

## 町の存立を支える安全の提供

3・11東日本大震災は、私が全力をもって作り上げた後人に誇りを持って渡すことができない町の姿である「豊かで勢いのある町」の持続的発展に暗雲を投げかけた。3・11以前には担保されていた本町の安全を根底から揺さぶり、町民の皆さまが安心して生活し企業の皆さまが安心して生産活動を営む際に不可欠な安全を失ってしまいました。

私に求められているのは、3・11以前にこの町に担保されていた安全が失われた今、1000年に一度の大津波に耐え得るハード面の整備をスピード感をもって行い、改めてこの町に3・11以前と同様の安全を担保することです。それができなければ、この町の企業が安心して生産活動を営み多くの雇用の場が確保されることに疑わしくなり、それに伴って人口が増加し続けることもあり得なくなりますが、だからこそ、危急存亡の崖っぷちに立たされたこの町に可及的速やかに「最善に期待し、最悪に備える」津波防災まちづくりにおけるハード面の整備が急がれるのです。

## 町長からのメッセージ 116

## 私が目指す吉田町



## 先人への感謝と後人への責務

本町は、平成21年に町制施行60周年を迎え、その記念誌として「輝きとともに」と題した吉田町町勢要覧を刊行しました。その中で、「この町の輝き、この町の勢い」に触れて、『過去から現在、そして未来へとこの町を流れる時間の中で、人々は時に喜び、時に悲しみ、涙し、それぞれの時代を一生懸命に生き抜いてきた。多くの先人の汗の上に今の我々があり、今の我々が流す汗の先に明日の後人がある。今をこの地に生きる我々は、今という時間の中で横に一体であることを感じ、また、過去、現在、そして未来と流れる時間の中でこの地に生きた先人と生きるであろう後人も縦に一体であることを確かなものと受け止める。この町は不思議な町だ。年々歳歳、多くの人々がこの町に集い、住みつく。この町に住む人々の数は増え続け、この町の勢いは力強さをいや増す。町勢に想いをはせる時、今に生きる我々は過ぎ去った時を生きた先人に感謝し、未だ見ぬ時を生きる後人に夢を贈らなければならぬ』と述べました。

また、第4次吉田町総合計画後期基本計画2011-2015のあいさつにおいて、「先人が築き、我々が受け継いだ吉田町の発展を持続的なものとし、後人に誇りを持って渡すことができるよう、町民の皆さまと手を携えて全力でもって走り抜きたいと思っております」と述べました。

## 町民の生活を支える安心の提供

「最善に期待する」ハード面の整備によって本町の持続的発展の鍵を握る安全が目に見える形で確立され、揺るぎないものとなれば、企業の皆さまが新規投資を含めて安心して生産活動を営むことを可能にする環境が整備され、その結果、多くの雇用の場が確保され、若い人は勿論のこと、多くの人が集う町の基礎的な条件は整うこととなります。

このように安全の確立、雇用の場の確保、人口の増加といった本町の持続的発展を可能にするポジティブなサイクルが確かなものになれば、そこには「豊かさと勢い」が再びよみがえり、本町に暮らす町民の皆さまの生活の満足度を高める「子育て」「教育」「健康

づくり」といった「生活を支える安心」をこれまで以上に量的に増し、質的に高めて提供することが出来るようになります。「豊かさと勢い」、そして「支える安心」が確保された先には、「人と人、心やすらぎ、健康で住みやすいまち」の将来都市像が町民の皆さまの前に確かな姿を見せるものと確信しています。まちの経営の基軸となるサイクルがポジティブに確立されれば、本町の明日は豊かなものになると確信しています。

永田町の国会議員の方々も、そして霞が関の中央省庁においても本町の津波防災まちづくりのモデルとすべく財政的な面でも技術的な面でもさまざまな支援の手を差し伸べてくださっていると感じています。町民の皆さまの切なる願いと多くの国会議員の方々や中央省庁の支援に答えるべく、本年度も全力で走り抜くことを改めてお誓い申し上げます。

